

ふくしま

2018. 6. 7

復興支援フォーラムニュース No. 131

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

【第129回ふくしま復興支援フォーラム/2018年6月7日・AOZ 大活動室1】

「福島県の森林林業の現状と課題について」

福島県森林組合連合会

松本 秀樹

福島県の森林面積は、97万5ヘクタールで県土の70.7%を占めており、北海道、岩手県、長野県に次いで全国第4位です。所有形態別では、林野庁など国が管理する国有林が4割の41万ヘクタール、残り6割の57ヘクタールが民有林で、民有林の樹種別は、スギ・カラマツ等植栽した人工林が4割の21万ヘクタール、天然林が35万ヘクタールの構成となっています。

森林は、木材生産をはじめ、水源かん養、憩いの場など多面的機能を有するとともに野生きのこ、山菜を提供し、県民生活と密接に関わっています。

平成23年3月に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により森林・林業を取り巻く環境は、大きく変化しました。津波の被害で海からの風を防ぎ塩害などから人家、農地を守っていた海岸部の保安林の6割にあたる155ヘクタールの森林が流出した。また、原発事故で放出された放射性物質の影響により森林と人の関わりを遮り、林業生産活動に大きな影響を与えた。スギ等の植栽された人工林では、混んできた林を間引きする間伐などの森林整備の継続が不可欠であるが、原発事故後の森林整備の実施面積が約5割まで減少した。山からの恵みである野生きのこや山菜の出荷が制限され、しいたけ栽培用の原木の伐採が制限されている。阿武隈産地を中心に生産され、県外にも供給していたしいたけ用原木の出荷の制限は、本県のきのこ生産に限らず全国きのこ栽培にも大きな影響を与えている。

原発事故発生以降、まず、放射性物質の森林内の動態を把握する必要があり、国、県等では森林内の空間線量率のモニタリングを実施している。7年経過した現在は、平成23年度から継続調査をしている362箇所（避難指示区域を除く）で0.23 μ Sv/h未満の区域が平成23年度時点の42箇所（構成比12%）から226箇所（構成比61%）に増加し、平均空間線量率が約31%までに低減している。

森林の放射性物質の動態は、原発事故発生が3月であり、発生時はスギ等の針葉樹とナラ等など広葉樹で分布の動向に差がありましたが、現在では、針・広葉樹ともセシウムの90%以上が土壌（大部分0～5cm）に分布している。

一方、森林の除染については、環境省は、生活圏の人家周辺20mまでの方針しかされていない。このため、国県では、森林整備による放射性物質低減のための実証事業に取り組み、森林整備による低減を図るため平成25年度から「ふくしま森林再生事業」が開始され、間伐等の森林整備と放射性物質の拡散防止対策を一体的に取り組みされている。しかし、その取り組みは、緒に着いたばかりであり、森林整備には長い期間を要することから継続した取り組みが必要であります。

さらに、津波被害で流出した海岸部の森林では、全国初となる200mにおよぶ林帯幅でクロマツ等を植栽し、新たな多重の防災機能を加えた海岸防災林が造成されていて、その姿が見えて来ている。

このように森林林業の復興・再生に取り組んでいるなか、6月10日には第69回全国植樹祭が南相馬市の海岸防災林で開催されます。この大会は、復興に力強く歩む本県の姿を広く発信するとともに、本県の森林・林業の再興の更なる進展の大きな契機となることを期待せずにはられません。



<第128回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

2018年5月22日、福島市AOZで、第128回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

瀬戸真之氏（福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任准教授）から、「災害記録の後世への伝承とその諸問題～震災記録誌編纂と災害資料収集の現場から～」をテーマに報告していただきました。35人の市民が参加し、熱心な質疑応答が続きました。

同会場で、文書提出されたご意見・ご感想は以下の通りです。参考にしてください。



★ 地元の経験、記憶を、先の人類、子孫に残すことの重要性に気づかされました。東京には、全島（村）避難の経験がある。それは福島の実害に活かされてきたのか。この提案に、他の地域の災害を自分たちのものとする大切さを感じました。（K.S）

★ アーカイブスについての基本的な情報が得られて良かった。（K.K）

★ お話ありがとうございました。岩手の収集と比較しながらのお話は、大変分かりやすかったです。特に「地域アイデンティティを守る」「失われたふるさとを記憶する」というお話が印象的でした。目に見えなく、納得しがたい原子力災害のダメージは、住んでいる方々の心に大きく残ると感じます。それをどう昇華し、悲しみから立ち直って前を向くのか、非常に難しい課題ですが、記録する、整理する、という営みは、その助けになると思います。素晴らしい取り組みだと思いました！（K.Y）

★ 予め、作業全体の系統的整理・分類を相当にいいに進める必要があると感じた。ボーダ

一領域の分類・整理、地域別、所轄別分担等について、もう一步踏み込んだ整理の視点を聞きたかった。(S. I)

★ 福島でのアーカイブの意義について、勉強になりました。(H. M)

★ アーカイブは、市町村各地でも必要性を感じているだろう。かたや。県や福島大学での資料収集を進めている。様々なアーカイブ拠点のネットワークが必要ではないか。檜葉北小の保存も記録、地域の絆、防災へつらなっているという視点も必要ではないか。(S. H)

★ 今日は、福島大学で行っている震災アーカイブズの実際を聞いて、とてもためになりました。市町村間の連携・情報の共通は真に考えてもらいたいものです。(Y. I)

★ 福島大学震災資料収集チームの収集・保管活動の姿に感動いたしました。末永い活動になるものと思われませんが、頑張ってください。(K. F)

★ 今回はじめて出席しましたが、カンパによる長期運営を実現されている事に、おどろきました。この試み・場を末長く続けられる事を望みます。(N. W)

★ なんのための収集伝承であるのか、誰に何を伝えようとするのか、という根本の問題について、ともすれば形式に終わりがちな取り組みの危うさも含め、率直な視点からの示唆をいただきました。(S. K)

★ 印象に残った言葉：この資料収集は、防災ではなく、失われつつあるアイデンティティ(=学校)の・・・。災害の特徴：目に見えない→納得しがたい。アーカイブズへの期待：地元住民一失われつつある故郷を記録してほしい。残しておきたい大熊の話。2020年には、公開用データベースが公開される予定。(S. S)

★ 県民の思いや状況は、変わってきている。特に原子力発電所事故による影響は変化する。そのような記録も様々な形でお願いしたい。とりあえず、やっておかなければならないという点もあるかもしれませんが、今後活用できるようになることを期待しています。(M. S)

★ 1) #128フォーラムを開催して頂き有難うございます。2) 震災(天災)と被害(人災)の発生実体(ファクト)の記録が、いかに膨大で大変なとりまとめである事がわかりました。3) 震災の記録は、媒体が多種多様ですので、更にとりまとめ、整理が大変と思われませんが、頑張ってください。4) 問題なのはこれからが大変だと思われませんが、①今までの記録・蓄積から、是非「発生予測システム」の精度向上に繋げて頂けたら素晴らしいと思います。②更に現在3.11復興長期ビジョン(東北一日本)がどこを探しても見当たりませんので、是非策定し、実行へつなげていただきたいと思います。(T. S)

★ 資料を1カ所に集めるのは不可能、それだけに各地にある資料をつなぐネットワーク化、情報のプラットフォームの構築も必要になってくるでしょう。(Y. T)

◆◆◆◆【会場カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第128回ふくしま復興支援フォーラム(5月22日)の会場で、カンパ4,500円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。(今野)

【会計報告】(2018.6.4現在)

第1期(～2015.9)累計 収入214,746円 支出207,640円 残(繰越)7,106円

第2期(2016.10.27～)

「収入」(2018.4.26までの累計) 114,667円 (第1期 繰越 7,106円含む)

会場カンパ(2018.5.22) 4,500円

計 119,167円

「支出」(2017.4.12まで累計) 93,440円

(2018.5.22)会場費(131,132,134) 7,620円

計 101,060円

「残金(現在高)」 2018.5.20 18,107円

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

<予告>

第130回(2018年6月21日(木) 18時30分～20時30分)

テーマ 「双葉郡の教育の現状と課題」

報告者 石井 賢一 氏 (富岡町教育長、双葉郡教育長会会長)

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」

大活動室1 MAXふくしま4F(福島市曾根田町1-18)

第131回(2018年7月13日(金) 18時30分～20時30分)

テーマ 「国に対する法的責任追及の意義と現在の課題

— 五つの地裁判決から見えるもの —」(仮)

報告者 清水 晶紀 氏 (福島大学准教授)

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」

大活動室1 MAXふくしま4F(福島市曾根田町1-18)